新潟医療福祉大学 教職支援センター

NEWS LETTER

Niigata University of Health and Welfare
Teaching Career Support Center

No. 7
2020.12

CONTENTS

1. 巻頭言：「みる」から学びにつなげよう
2. 卒業生の活躍
3. 2020年実施 教員採用試験結果/
合格者へのスペシャルインタビュー
4. お知らせ/今後の予定
5. あとがき

「みる」から学びにつなげよう

教職支援センター運営委員　**高田　大輔**（健康スポーツ学科）

依然として、新型コロナウイルス感染症の収束が見えていませんが、日常的にマスクをしたり、ソーシャルディスタンスを意識しながら行動したりする新しい生活様式が少しずつ定着してきたように感じます。学校現場でも授業が再開され、運動会や文化祭等も少しずつ再開されています。しかし、学生の皆さんが学校ボランティアに参加したり、公開授業に参加したりするということについては少しハードルが高いのが現状です。では、このような中でどういったことをすると学校ボランティアや公開授業に参加した時と同様の学びができるでしょうか？

私は、**「みる」ということが大事ではないかと考えています。**現在、YouTube等の動画配信サービス、文部科学省や各出版社から映像教材等がたくさんあり動画を「みる」ことは簡単にできます。もちろん教育に関連する書籍や雑誌等から情報収集することもあるかと思います。しかし、学校ボランティアや公開授業は動きのある状況であるため、紙面上の活字ではなかなかイメージすることができません。また、**勉強のきっかけづくりでは映像を「みる」ことの方が容易だと考えます。**YouTubeは学生の皆さんのほとんどが一度は利用しているかと思います。自分のみたい映像は検索エンジンを使用することでかなり絞れます し、関連する映像も提供してくれます。例えば、ハードル走の技術的ポイントを学習したい時には、「ハードル走 ポイント」等と検索するとたくさんの動画を視聴することができます。著名アスリートや大学教員から一般の方までさまざまな人がいろいろな形でハードル走の技術的ポイントを解説してくれます。これを基に**共通のポイントや独自のポイントを整理することで自分の知識とすることができます。**また、動画によっては小さい子ども向けの教え方であったり、アスリート向けの教え方であったりと対象者による指導方法や手順等も学ぶことができます。このように、映像を「みる」ことによって多くの学びの可能性があります。その際には、**ただ「みる」だけでなく、「みる」視点も重要になります。①何を、学びたいのか？②対象者は？③どのように活用できるか？…等の「みる」視点を定めましょう。**また、授業研究会等もオンライン開催が増えていますので、実際に学校へ行かなくても授業を「みる」ことができます。ぜひ参加してみましょう。

学校現場になかなかいけない状況の中、学生の皆さんも学習の仕方を工夫していきましょう。このように学びのきっかけとして「みる」ということを行ってみてはいかがでしょうか。（※動画を視聴するにあたって、間違った情報や全く異なるコンテンツ（ウイルスの埋め込み）等も存在するため、情報モラルには十分に注意する必要があります。）

卒業生の活躍

現職教員として活躍する２名の卒業生からのメッセージです。教員を目指す皆さん、是非参考としてください。
①教師のやりがい　②大学時代に学んだこと・役立っていること　③大学時代にしておけばよかったこと

中学校教諭（保健体育）

松澤 裕也さん（2015年度卒業生）
所属：宮城県内中学校

①教師のやりがいは、日々成長する生徒の姿を感じることができる点だと思います。
学校では、勉強だけでなく部活動や行事など、目標を持って取り組む活動がたくさんあります。生徒はそれらに挑戦する中で、真剣に考え 行動し、毎日成長しています。勤務校では生徒会や中体連など、大きな校務分掌を任せていただいています。教育活動に直結する役割であることから、**生徒の成長を間近に感じることができます。教師はやりがいに満ちた素敵な職業**だと感じております。

②大学時代に取り組んだ勉強や部活動、アルバイトなど**すべての経験が教職に役立っています。**教科指導や生徒指導、いかなる教育活動においても、**生徒が真剣に耳を傾けようとするときは教師の人間性そのものに触れているとき**です。「先生が中学生のころは…」「大学生っていうのは…」と、話すことは生徒にとってとても興味深いものだと思います。楽しかった思い出も悔しかった体験も、生徒に伝えることができるものはすべて教材です。私自身、これからも研鑽に励み人間性を深めていきたいです。

③教育以外の分野で働くという経験があればよかったかなと思います。
大学時代は小学校の授業に入ったり、中学校の部活動（野球）で指導を行ったり、家庭教師のアルバイトをしたりと、積極的に活動していました。
現在教員として働き、「社会に出る上で必要なことって何だろう」と考えることが多々あります。教育に関わるアルバイトやボランティアだけでなく、**職種にこだわらず色々なものに挑戦し、経験や知識を深めることもよい**ものだなと振り返っています。

小学校教諭

石井 知佳さん（2017年度卒業生、小学校教員養成特別プログラム１期生）
所属：新潟県内小学校

①教師の仕事は、もちろん楽しいことばかりではありません。子どもたちとともに悩んだり、時には涙したりすることもあります。毎日様々なことに一緒に挑戦している**子どもたちの成長していく姿を間近で見られること、「先生ありがとう」の一言を聞けることは、何よりも嬉しくやりがいを感じます。**

②大学時代、勉強やボランティア活動、アルバイト、部活動など、様々なことを幅広く経験し、人との関わり方を学んできました。教師の仕事に関わらず、働く上では様々な人との関わりがあります。**自分から多くの人とコミュニケーションを図ることは、多様な考えを知り、子どもや保護者の気持ちを理解することにつながっている**と思います。

③**１分１秒を大切に生活すること**です。勉強をするにも、遊ぶにも、大学生の頃は時間が無限大にあると感じていましたが、仕事に就いてからはそうはいきませんでした。**学生だからこそできることを全力で楽しんで**おけばよかったと今になって感じます。

２０２０年実施 教員採用試験結果

現役合格者６名・大学院合格１名輩出！卒業生８名合格！

今年度実施された教員採用試験において、大学院健康栄養学分野１名（栄養教諭）、健康スポーツ学科５名（中学校・高等学校保健体育教諭２名、小学校教諭３名）、看護学科１名（養護教諭）計７名の合格者を輩出いたしました。また、３学科の卒業生８名からも合格の報告が届いております。教職支援センターでは、卒業生の教採対策指導も行っています！今回合格した４名の方のスペシャルインタビューをどうぞ！

合格者へのスペシャルインタビュー

①教員を目指した理由は何ですか？　②教員採用試験に向けてどんな取り組みをしましたか？　③後輩へのアドバイスをどうぞ！

新潟県
栄養教諭
合格
S.Nさん
（大学院）

①本学を卒業後、医療・福祉関係の道に進みましたが、利用者の方々と日々関わる中で**生活習慣病や食の偏りの原因の多くは幼少期からの食生活に影響していることに気づいたことがきっかけ**です。チャンスがあれば、子どもの時からの食育に携わりたいと思いました。
②**教職支援センターが開催している講座・外部講師の講座、各学科での専門試験対策などを活用**しました。また、講座以外にも一緒に**教職を目指す仲間たちと集まり、定期的に勉強していました。**
③改めて振り返ると、自分一人の力では合格を掴むことはできませんでした。私は、教職支援センターの先生やスタッフの方々・栄養学科の仲間はもちろん、教職を目指す他学科の仲間に支えて頂きました。もし行き詰まっても、**一人で悩みを抱え込まずに誰かに相談してほしい**なと思います。皆さんの夢を応援してくれる方々ばかりです。頑張ってください。

①小学校６年生の時の担任との出会いがきっかけで教員を目指し、中学校・高等学校でも素晴らしい先生方に出会いました。その中で、高校時代の**体育教師の専門性を生かした授業や部活動指導にあこがれ**保健体育の教員を目指しました。
②大学の先生方や、今までお世話になった**先生方にたくさん質問をして教員採用試験に関する情報を集めました。**そのうえで**一次試験突破のために、ひたすら筆記の勉強**をしました。二次試験に向けては、**教職の先生方に面接練習をしてもらい自分らしく話すことを心掛けました。**
③**「教員になりたい」という強い思いを大切に、採用試験に向けて全力を注ぐこと**が一番の近道だと思います。教職の先生方は素晴らしい人ばかりです！たくさん頼って合格できるように頑張ってください。応援しています！

新潟県
中学校・高等学校
教諭（保健体育）
合格
D.Nさん

新潟市
小学校教諭
合格
H.Nさん

①母が中学校の教師をしていたことで小学生のころから教師という職業に興味を持ちました。その後、部活動指導がしたいと思い、**中学校保健体育の教師を目指していましたが、小学校の学習ボランティアを通し、子どもたちの成長に一番近くで携わりたいと思い、小学校教諭を目指すようになりました。**
②今年は大学でみんな集まり、勉強することが難しかったため、自分との闘いでしたが、**友人と連絡を取り合い、励まし合いながら**最後まで頑張りました。また、**学内講座に積極的に参加**し、先生方から多くのサポートをいただきました。
③**自信がとにかく大事**です。試験の時に後押ししてくれます。気持ちが小さくなっては、発揮できるパフォーマンスもそれまで。その**自信を持てるように今できることを全力でやってください。**遊びもバイトもメリハリをつけて全力で！をお勧めします。

①子どもが好きだったので、子どもに関わる仕事がしたいと思ったのがきっかけです。**学習支援ボランティア**等で実際に子どもと関わったり、養護教諭の仕事を見たときに「養護教諭になりたい」と思いました。
②一次試験は**自治体の傾向を掴んだ上で、知識を着実につけていく**ことを意識して勉強をしていました。二次試験は、大学の先生方に沢山指導をしていただき、**模擬授業や場面指導のパターンを何通りか準備して、何度もシュミレーション練習**をしました。
③**学習支援ボランティアや障害児支援ボランティア等の子どもの実態を知ることのできる経験を沢山すると良い**と思います。また、心が折れそうになった時こそ、**絶対に教員になりたいという強い意志を持ち、自分の努力を信じてあげる**ことが大切だと思います。

新潟市
養護教諭
合格
N.Kさん

お知らせ/今後の予定

▶教職担当教員による教員採用試験対策 学内講座

10月～２月にかけ、各種講座を対面およびオンラインで開講中です。
３年生を中心に積極的にご参加ください。１～２年生も歓迎します。
後期講座は2021年度前期講座へつながっていきます。

月：模擬授業＆一次試験筆記試験対策３～５限
火：論作文演習Ⅰ３限　　木：教育課題演習Ⅰ３限
水：面接演習Ⅰ３限　　金：栄養総合演習Ⅰ５限

▶個別相談・個別指導

予約制で随時受付中です。積極的にご利用ください。

▶東京アカデミー講師による教員採用試験対策オンラインガイダンス

３年生対象
11月９日（月）、11月16日（月）、12月14日（月）
※申込は終了しました

▶学内模擬試験

実施予定は次の通り。
場所：D204
12月26日（土）　東京アカデミー第１回模試
2月25日（木）　東京アカデミー第２回模試
4月　2日（金）　東京アカデミー第３回模試

あとがき

新型コロナウイルスの出現に伴う「新しい日常」様式により、教職支援センターの活動も大きく変わりました。そのような中でも、教職支援センターニューズレター第７号を発刊し、本学教職課程に関わる皆さんのメッセージをお届けできることを嬉しく思います。前例のない状況が多々発生した今年、我々教職課程担当教職員も一丸となり、日々懸命に対応してきました。決して望んだ状況ではありませんが、困難が大きい分、我々の団結力もより強くなったように思います。「新しい日常」様式においても、他者との繋がりやその力を活かし、前向きに物事に取り組んでいきたいものですね。

（健康スポーツ学科　吉田）

新潟医療福祉大学　教職支援センター ニューズレター
2020年12月２日発行
発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地
お問い合わせ
E-mail：kyoshoku@nuhw.ac.jp
ブログ：http://nuhw.blog-niigata.net/kyoshoku/
Twitter：@NUHW_kyoshoku
新潟医療福祉大学 教職支援センター　検索
ブログ　Twitter